

経営比較分析表（令和元年度決算）

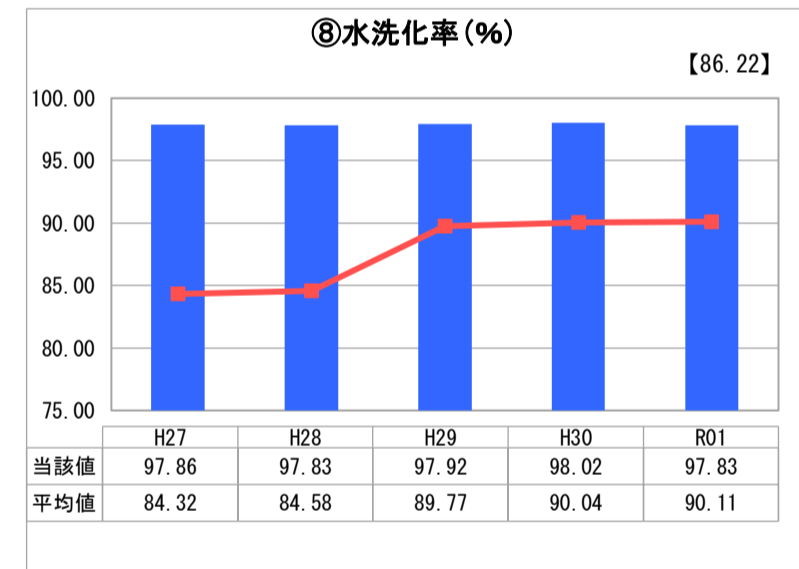
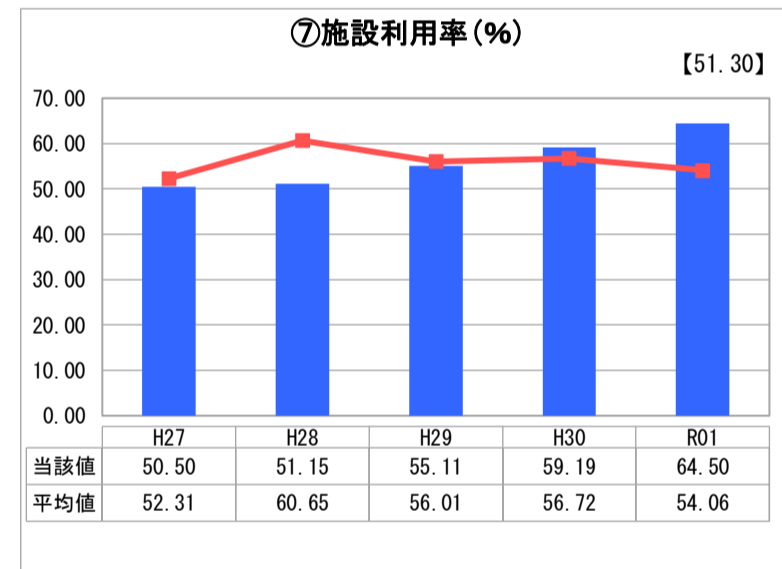
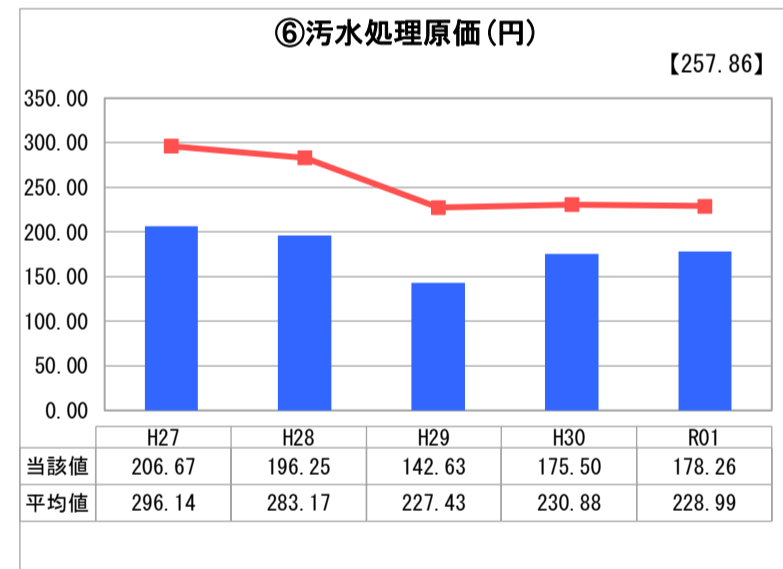
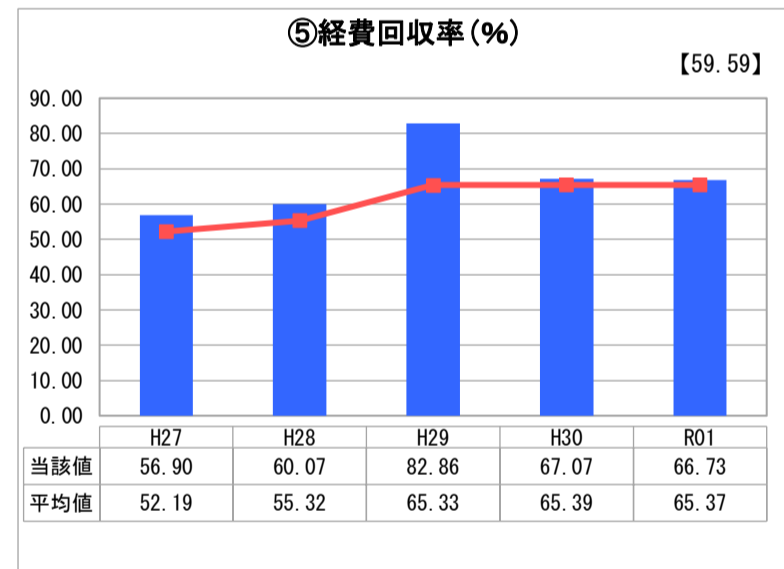
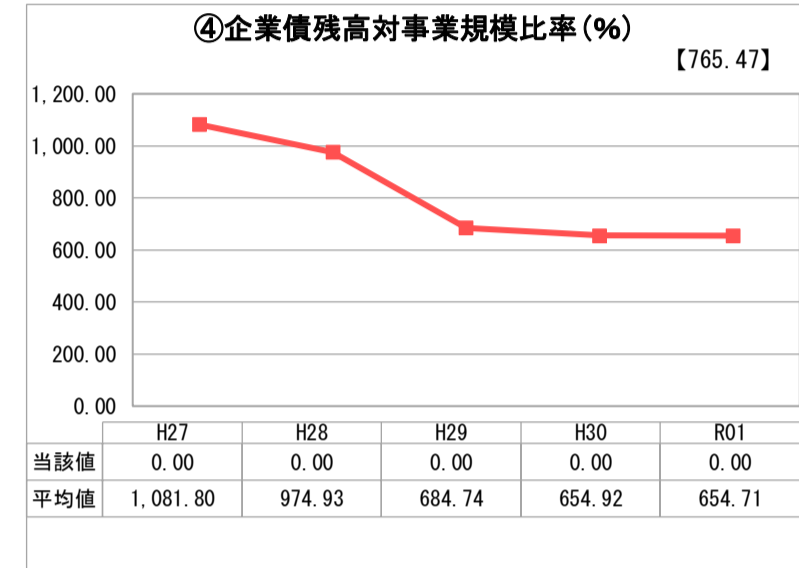
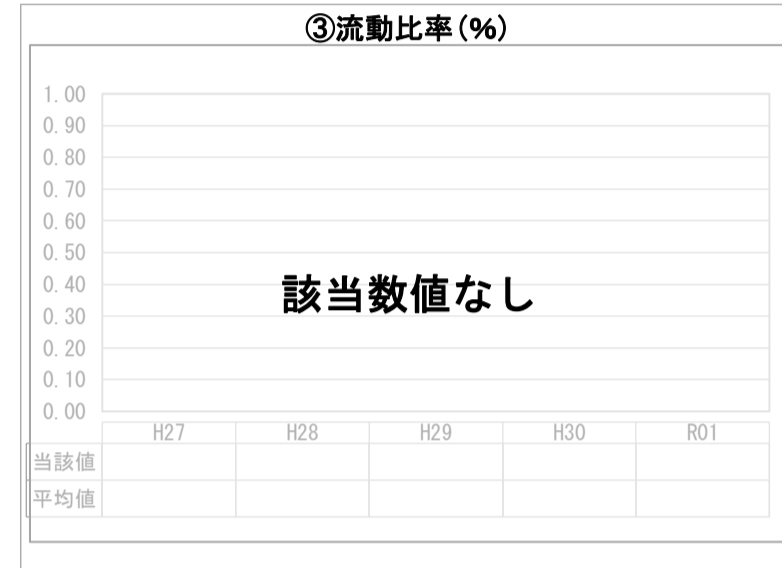
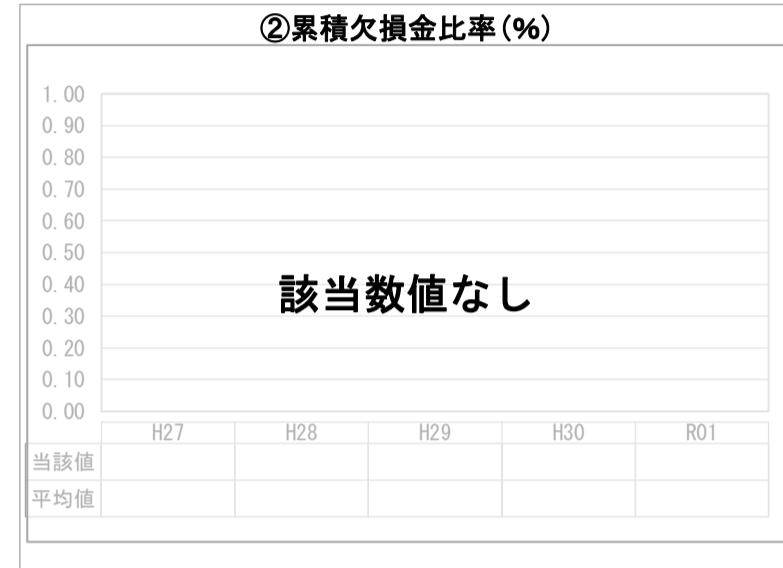
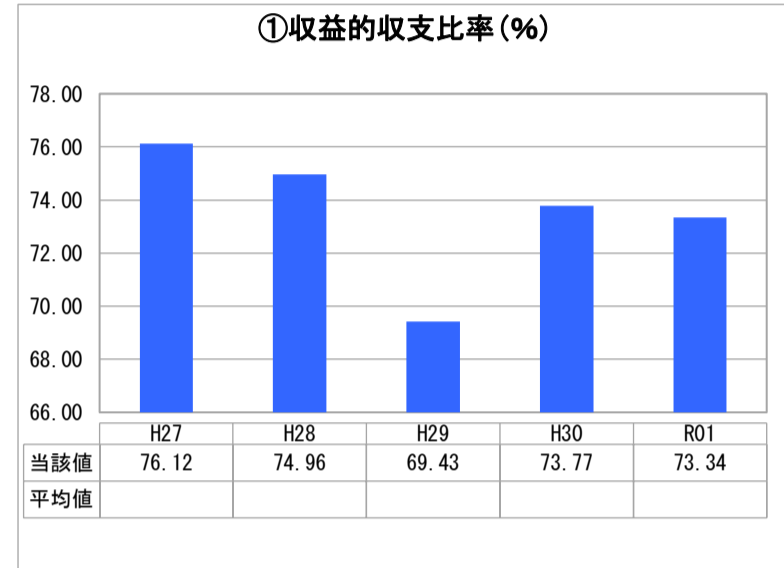
福井県 おおい町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	77.80	71.78	2,090

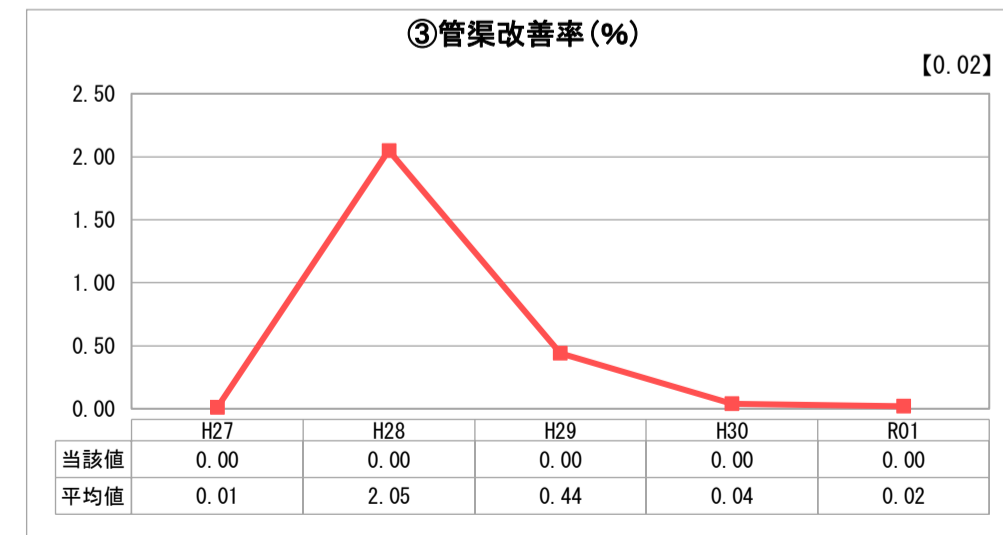
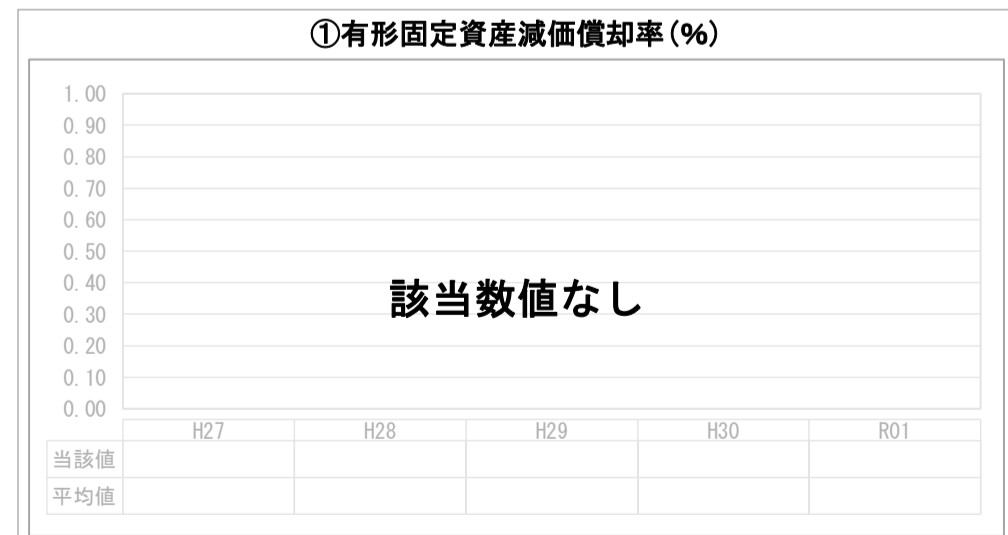
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,213	212.19	38.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,360	3.40	1,870.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

統一的な基準による地方公会計制度に基づき、町会計区分の見直しを平成29年度に行った。上記の見直しとして、廃棄物処理施設（大飯浄化センター）の費用等を一般会計に移行した。このことから、会計区分見直し前の平成28年度以前と比較を検証することが難しいことから、平成29年度以降の分析の結果、平成30・令和元年度は平成29年度と比較して各処理施設の老朽化による故障や計画的な機器の更新費用の増加のため、①収益的収支比率が増加し、料金収入はほぼ横ばいであることから、⑤経費回収率は減少、⑥汚水処理原価は増加した。料金収入は、近年横ばいで推移しており、費用が増加した場合は、一般会計繰入金により収支バランスを整えている。収益的収支比率を高めるためには、費用の削減や料金収入を増やすことが必要となり、施設の統廃合に着手するなど費用の削減に努めている。

2. 老朽化の状況について

本町の下水道施設は、最も古い施設で建設から約30年であり、管渠についても同様である。管渠の標準耐用年数が50年であるため、管渠の老朽化は進んでいない。管渠については、修繕が必要な箇所が判明次第、修繕を行っているが、今後老朽化が進む前に計画的に更新計画を立てていく必要があると考えている。処理場については、老朽化が進む施設が増えているが、平成20年度より計画的に汚水処理槽の補修及び設備の更新を行い長寿命化に努めている。

全体総括

水洗化率が100%近くで推移しており、今後接続率を向上することによる料金収入の大幅な増加は見込めない状況である。他方で、老朽化が進んでいくため維持管理費や施設の更新費用が増加していくことが予想される。更新時期や修繕時期が集中しないように今後計画的に修繕等を実施していく予定である。また、人口減少により料金収入が減少していくことが予想されるため、処理場の統廃合により費用の削減を図るとともに料金改定により収入の増加を検討していく必要があると考えている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。